

デンソー山岳部 2018 年度 夏合宿報告書

- ◇ 山城 北アルプス裏銀座
- ◇ 日程 平成 30 年 8 月 11 日～8 月 14 日
- ◇ メンバー 方田智貴(CL)
鈴木芳則(SL、車)
西川徹朗(装備)
福岡道成(渉外、車)
古婷婷(記録)
北浦宏祐(会計)
鈴木美帆子(食料)
天野広(気象)



西鎌尾根からの裏銀座稜線



槍・星空・朝焼け



ルート

<第 1 日> 8/11(土)8/11 (土) 曇り→晴れ 【福岡 記】

【行動記録】 行動=6H40M(幕営除く)

起床(04:30)→南安タクシー(05:00)→七倉山荘(06:00)→高瀬ダム濁沢登山口(06:45)→ブナ立尾根取付(07:15)→権太落し(08:05)→三角点(10:00)→烏帽子小屋(11:10)→烏帽子ひょうたん池、幕営(11:40)→烏帽子小屋(12:05)→烏帽子岳山頂分岐(12:35)→烏帽子岳(12:50)→烏帽子小屋(14:20)→烏帽子ひょうたん池(14:40)

8/12 夜は、車の配送を依頼した南安タクシーの事務所にて宿泊。ブルーシートがひかれた会議室を宿泊部屋として貸して頂き、また、パーティが我々のみだったこともあり、よく休むことができた。南安タクシーさんありがとうございました。

8/11、4:30 起床。天候は曇り。タクシーを七倉山荘にて乗り継ぎ、高瀬ダム登山口へと到着。乗車中、小雨に一時降られるも、登山口は曇り。天候の回復を祈りつつ、装備を整える。高瀬ダムにて、鈴木芳さんのヘルメットが紛失していることに気が付く。分乗した後発タクシーのメンバに聞いたところ、七倉→高瀬間のタクシーは荷台が完全に閉まらなかったため、途中で落ちた様子。早くも悲しみを背負う。

7:15、北アルプス 3 大急登の一つ、ブナ立尾根に取り付く。裏銀座縦走の始まりに高揚するも、「要体力！この先水場なし」の看板をみて気を引き締める。その矢先、着込みすぎと高湿度のため、熱中症気味となってしまう。権太落しの 1 本目の休憩にてレインウェアを脱ぎ、十分な水分を補給して、回復する。天候も回復することを祈る。その後も急登をひたすら登るが、「銀座」の名に違ふことなく、よく整備された登山道で登りやすい。道のりは長い、一歩ずつ確実に歩を進める。

11:10、全員無事にブナ立尾根を登り切り、烏帽子小屋に到着。小屋の周囲には綿になったチングルマなどの高山植物が咲き乱れ、急登を登り切った疲れを癒してくれた。周囲の山々にはまだ雲がかかっており、この先歩く稜線は見えない。また、お盆休み初日ということで、小屋近くのテント場はほとんど埋まっていたが、ひょうたん池付近でエスペース 2 張りを張れるスペースを確保。幕営を終えると、周囲の雲が次第に晴れてきて、徐々に展望が回復する。好天を感謝し、烏帽子岳へ向かう。

12:05、烏帽子小屋を出発。下に雲海、上に所々青空と、稜線ならではの景色が広がる。メンバも荷物のデポに良展望が加わり、足取りが軽い。前烏帽子を登りきると、その名の通り烏帽子帽の風貌をした烏帽子岳が悠然と佇むのが見えた。登っていた時は渋滞も少なく、全員無事登頂することができた。方田さんが「この合宿の最大の楽しみの一つ」と言っていた通り、見るに美しく、登るのに楽しい山だと感じた。

14:25、烏帽子小屋にて乾杯。ビールやコーラで 1 日目の疲れを癒す。その後テント場へ移動し歓談。北浦さんが気持ちよさそうに眠りに入る。お酒はあまり強くない様子。夕食は鈴木美シェフによる白湯鍋+ラーメン。ウインナーも入っており、野菜、お肉、炭水化物の明日に必要なエネルギーをバランスよく、美味しく頂くことができた。18:30、早めに就寝し、明日に備える。



烏帽子岳 (2,628m)



烏帽子岳山頂

<第2日> 8/12(日) 曇り時々晴れ 夜雷雨 【北浦 記】

【行動記録】 行動時間: A 隊=09H30M, B 隊=11H00M

烏帽子小屋発 (04:00)→三ッ岳山頂 (05:20)→野口五郎小屋 (06:45)→野口五郎岳 (07:15)→真砂岳 (07:50)→水晶小屋 (10:10)→水晶岳山頂 (10:50)→水晶小屋 (11:20)→ワリモ岳 (A=12:10, B=12:50)→鷲羽岳 (A=12:40, B=13:40)→三俣山荘着 (A=13:30, B=15:00)

- ・ A 隊: 鈴木芳, 福岡, 北浦
- ・ B 隊: 方田, 天野, 西川, 鈴木美, 古

2時半起床。気温はちょうどよかったが、空は予報通り雲が多い。それぞれのテントで雑煮を食べた後4時出発。三ッ岳に向けて歩を進めていた5時頃、朝日が雲の隙間から顔をのぞかせた。稜線上から眺める夜明けは、自分には初めての光景であったが何回でもみたいと思うほどに美しかった。そのまま稜線伝いに進み、野口五郎小屋を経て7時過ぎに野口五郎岳に到着。ちなみに歌手の野口五郎は名付けの際、黒部五郎も候補に挙がったが、より標高の高い野口五郎になったらしい。今度は黒部五郎にも登ってみたい。本題に戻る。水晶岳に進むにつれ雲が増えていく。それとともに隊の足取りも重くなり、遅れが目立ち始める。水晶小屋で荷物をデポし、11時前に水晶岳山頂到着。全員で百名山記念写真を撮るが、雲のため残念ながら眺望は0。



野口五郎岳山頂 (2,840m)



水晶岳「山」頂 (2,986m)

ここで、三俣山荘のテント場は狭く時期柄混雑が予想されるため、CL 判断によりテント場確保のために隊を分割。自分は先発の A 隊として先を急ぐ。稜線上を進むので、天気がよければ山々を一望できるのだが、ガスが多く期待したのも得られなかった。またリベンジしたい。ワリモ岳を挟んでアップダウンの道のりが続くが、自分はほか2人について行くのが精一杯だったので、足腰の強化が必要だと感じた。12時半過ぎ鷲羽岳に到着。一瞬、雲の切れ間から槍ヶ岳がその姿を現し、初めて見るその大きく高く尖った姿に圧倒された。



鷲羽岳山頂 (2,924m) (A 隊)



鷲羽岳山頂 (B 隊)

山頂から急斜面を下っていくとすぐ小屋が見える。しかし見えているのになかなか近づかない。地図を見ると 400m の下りらしい、納得。ここを下れば今日は終わりと自分に言い聞かせてどうにか 13 時半三俣山荘到着。すでにテント場はかなり埋まっていたが、隅の方にどうにか確保でき安心した。その後 15 時に B 隊が到着。こちらも疲労困憊のようであった。夕食までの間、福岡氏がコーヒーを淹れてくれた。山で飲むコーヒーは平地より美味だが、水、豆、挽きたて、にこだわった彼のコーヒーは格別であった。夕食は炊き込みご飯。焦げ付きやすいとの忠告を森部長から事前にいただいていたので、火加減に細心の注意を払った。蓋を開けると、いい香りが広がりわあっと声があがった。行動時間も長く皆空腹だったのですぐに鍋は空になった。お酒とともに差し入れに頂いた牛肉しぐれ煮もいただく。お、おいしい...! 自分の知っている牛肉しぐれ煮じゃない... 皆も同じだったようで、こちらもあつという間になくなった。ごちそうさまでした。19 時ごろから急に風雨が強くなったため、そのまま就寝した。片方のテントはフライの固定が甘く、風でフライが本体に張り付き浸水した。しっかりと固定することの重要性が雨とともに身にしみる夜となった。

<第3日> 8/13(月) 雨時々曇り 【鈴木芳 記】

【行動記録】 行動時間:10H00M

三俣山荘(04:00)→三俣蓮華岳(05:26)→丸山(06:00)→中道分岐(06:23)→双六小屋(07:14)→縦沢岳(08:08)→千丈乗越(11:07)→槍ヶ岳山荘(12:17)→槍ヶ岳(13:01)→槍ヶ岳山荘(14:00)

02:30 起床。夜中に雨、風が強くテントが大きく揺さぶられよく眠れなかった。朝食は、昨日作ったふりかけおにぎりにてお腹を満たした。支度を整え 04:00 出発。天気は雨、上下レインウェア装備でヘッドライト頼りでのスタート。ガスの中ゆっくりと登って行く、周りは明るくなって三俣蓮華岳に登頂するが、展望は、まったくくない。その後も、ガス、雨、風の中もくもくと山行を続ける。一瞬ガスが晴れると皆で、周りの山を検索するも、本日目標の槍ヶ岳は、いっこうに姿を見せず。丸山—縦沢岳—千丈乗越とやはりもくもくと登り下りを繰り返すだけであった。千丈乗越で長めの 1 本を取り目標の槍ヶ岳山荘を目指す。メンバーに疲労が出てきているが、最後の登りを一気に登り詰める。きつい急登が続いたが皆頑張り、槍ヶ岳山荘前で握手で喜びを分かち合った。槍ヶ岳山荘到着時、雨風が吹き付けひどい寒さであった。テント場が一杯であり殺生ヒュッテに降りてテント場を探すか検討したが、ひどい悪天と殺生ヒュッテでのテント場の保証がないため、CL、SL の判断で安全を優先させ小屋泊に変更した。小屋で、天候の回復を待ち雨が止んだ時点で、槍ヶ岳アタックした。高所恐怖症であった鈴木美帆子さんも果敢にチャレンジした。槍ヶ岳に順次登頂、順番にハイタッチ、集合写真を撮影。残念なことに展望は全くなしであった。慎重に下山し小屋の自炊室にて乾杯、OB 不破さんからの差し入れの牛しぐれを堪能した。夕飯に各自違う味のレトルトカレーライスを食べ、小屋での布団でゆっくり眠れることが出来た。



雨中の槍ヶ岳登頂(3,180m)

<第4日> 8/14(火) 晴れのち雨 【鈴木美 記】

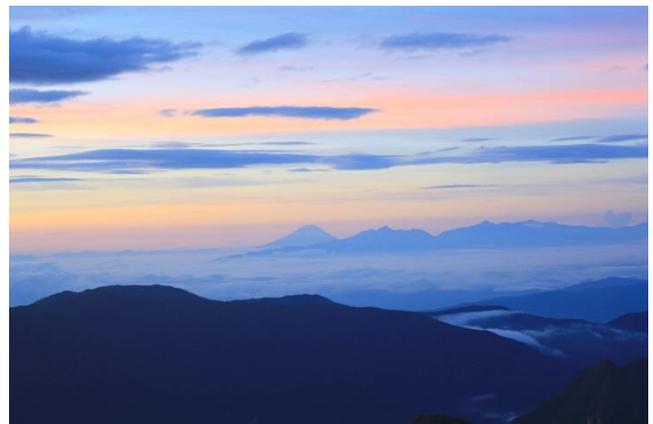
【行動記録】 歩行時間=6H10M

- ・再登頂チーム(方田、鈴木芳、西川、古):
起床(03:00)→槍ヶ岳山荘発(03:30)→槍ヶ岳山頂(04:00)→槍ヶ岳山荘着(04:30)
- ・星空観察チーム(福岡):
起床(03:00)→星空観察
- ・山荘満喫チーム(天野、北浦、鈴木美)
起床(04:30)→全員揃ってご来光を拝む(05:00)→朝食(05:30)→槍ヶ岳山荘発下山開始(06:30)→千丈乗越(07:10)→飛騨沢千丈乗越分岐(07:40)→槍平小屋(08:50)→滝谷(09:53)→白出沢(11:20)→穂高平小屋(12:00)→小鍋谷ゲート(12:30)→新穂高ロープウェイ(12:40)→新穂高温泉駐車場(13:20)

前日とは一転しとても良く晴れた。山荘泊ということでぐっすり眠ることができ、全員調子良く最終日の朝を迎えることができた。槍ヶ岳に再度登頂したいという(変態)メンバーがいたので、早朝は「再登頂チーム」、「星空観察チーム」、「山荘満喫チーム」の3チームに別れ行動した。トランシーバーで連絡を取り合い再登頂チームの下山開始に合わせて朝食を準備してしばし待っていると、山荘へ着いた再登頂チームに呼ばれた。外に出ると、前日はガスで良く見えなかった槍ヶ岳山頂が綺麗に見えた。槍ヶ岳とご来光を眺めながら、あんなに高いところに立った自分はなんてかっこいいんだ、と、前日の登頂の喜びを噛み締めた。また富士山も望むことができた。山荘へ戻り朝食のカップヌードルリフィルを美味しくいただきながら各チームの報告会。ちょうどペルセウス座流星群が見ごろということで暗いうちは流れ星が何個も見えたとのこと。山荘を満喫している場合ではなかったと激しく後悔…。全員でお揃いの槍ヶ岳Tシャツを着て記念撮影し、下山開始。



満天の星の下で槍山頂へ



槍山荘から富士山を眺望

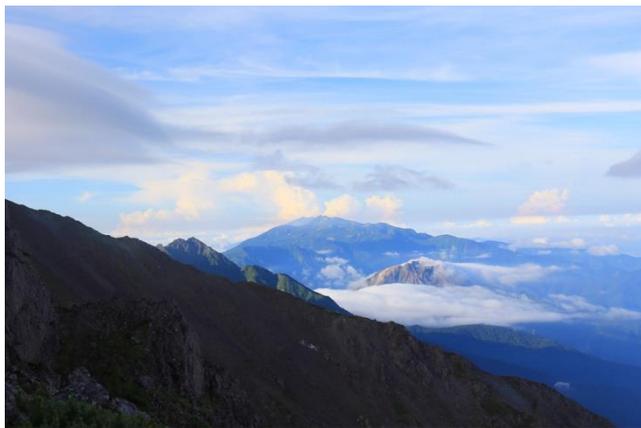


全員お揃いの槍Tシャツ



美しい稜線

前日はガスで何も見えなかったのですが、千丈乗越までは前日と同じルートにした。千丈乗越からは今回の合宿ルートの水晶岳や鷲羽岳を一望することができた。あんなに遠いところから歩いてきたのか、とか、ガスで見えなかったルートはこんな道だったのか、など話が弾んだ。やはり天気が良いので皆楽しそうだった。千丈乗越を後にし、お花畑のルートから下山。トリカブトやアザミが綺麗に咲いていた。別ルートから下山していた登山者が遠くに見えたので「ヤッホー！！」と手を振りながら声を掛けたら向こうも「ヤッホー！！」と答えてくれた…嬉しい！また、下山中すれ違った何人かの方にお揃いのTシャツいいね〜と声をかけていただきテンションが上がる。知らない人たちとも自然と交流できる、登山っていいな〜としみじみ思った。もくもくと下山している途中、美味しそうなキイチゴがあり自分で食べるのは不安だったので方田リーダーに食べてもらった。まずそうにしていたので自分は食べるのをやめた。方田リーダーいわく、山の味がした、とのこと。前日の雨もあり、下山ルートはとても滑りやすくなっていて自分も含め何人かのメンバーが転んでいた。疲れも溜まっていたのでみな慎重に進んだ。滝谷では、足場の不安定な沢を渡らなくてはならず、私はザックを置いて渡り、そのザックを取りに行ってくれた福岡さんが片足をドボンしてしまった(ごめんなさい…)。暑かったのでここで少しの間沢遊びを楽しんだ。水はとても冷たく気持ちよかった。白出沢で1本休憩を取った後は長い林道が始まった。道は平坦で歩きやすいが、4日分の足の痛みを実感した。途中で雨が振り出してしまい急いで下山したいところだったが足が思うように動かない。そんな中なぜか古さんは急にスピードアップし他のメンバーを驚かせていた。後で聞いたら早く下山したかったとのこと(笑)それにしてもそんなパワーが残っているのがすごい！新穂高ロープウェイの駅に着くと同時に雨が激しくなり、駅で雨宿りがてら休憩。駅には登山服ではない人たちがいて、長かった合宿の終わりを感じると同時に私たち臭くないかしら、と申し訳ない気持ちになった。雨が上がり新穂高温泉駐車場に到着下山完了！温泉は「奥飛騨ガーデンホテル 焼岳」へ行き久しぶりのお風呂を楽しんだ。料金は700円で、何種類かのお風呂がありなかなか良かった。私は入らなかったが混浴も有った。入浴後は平湯大滝の食事処「あんき屋」へ行き飛騨牛などを堪能し帰路に着いた。



千丈乗越から焼岳、乗鞍岳を眺望



沢遊び

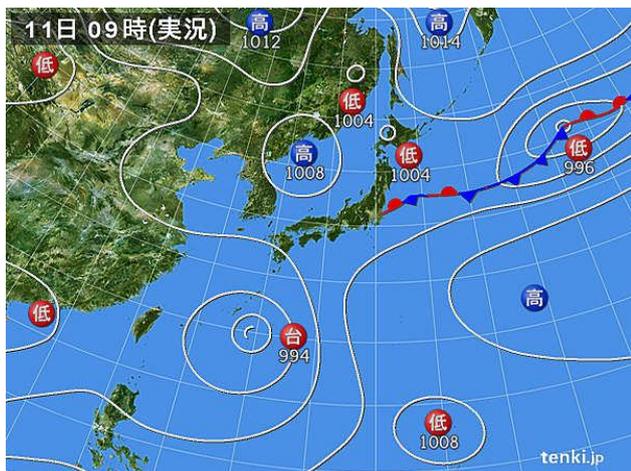
【装備 西川】

ガス缶は過去の合宿レポートを参考にLサイズ満タン1本、使いかけ2本で丁度良かった。反省点として、三俣山荘で雨に降られ、各テントで朝食となったが、オタマを1つしか持って行かなかったため、順番待ちが発生した。共同装備の持ち方として、雨に濡れ重くなった場合には荷物の再分担をしたり、テント確保のため先発させる場合の持ち物を事前に決めておくのが良かった。その他、本社駐車場へ帰着後、メンバーの車のバッテリーが上がっていた。バッテリー上がりであれば、北門でブースターケーブルを借りることが出来ることは共有しておきます。

【気象 天野】

今回も大矢さんの天気予報サポートをいただいた。ありがとうございます。

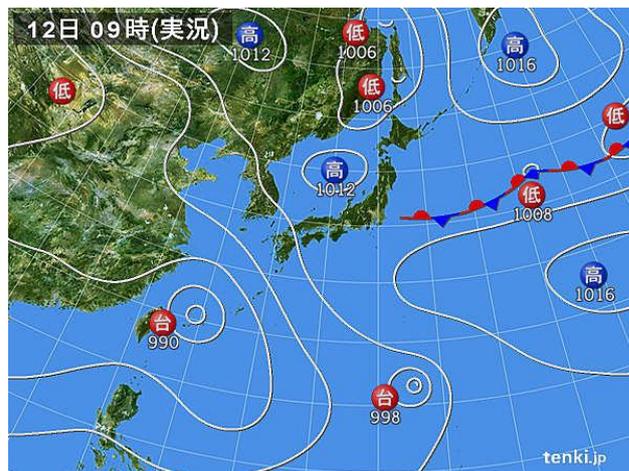
「午後からは雷雲発生しやすく早立早着」の助言を実行し、概ね快適な山行が出来ました。



<第1日> 8/11(土)

曇り時々晴れ一時雨

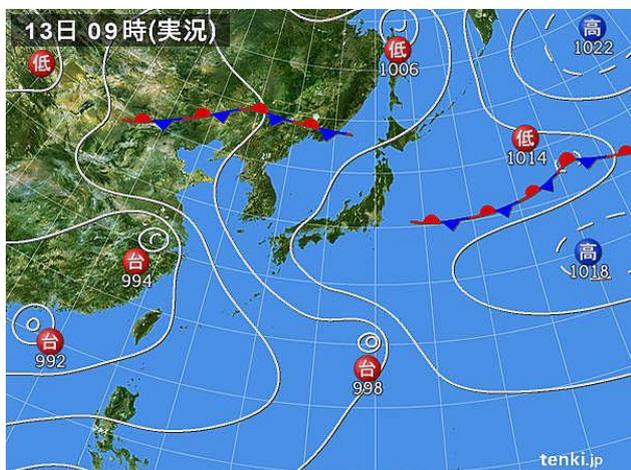
ブナ立尾根の途中でパラパラと雨が落ちたが、カッパを着る程ではなく、稜線に出ると一時青空がのぞき、烏帽子岳に登るときから夕方までは快適な天気となった。



<第2日> 8/12(日)

曇り時々晴れ のち一時雨

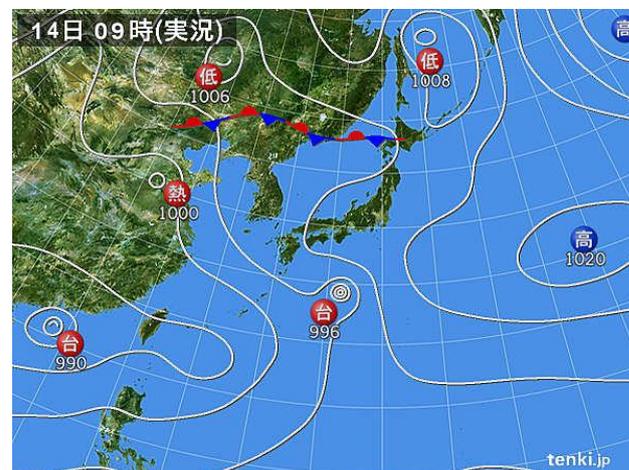
夜明け時点は晴れていたが、歩き出すとガスに包まれ、稜線の展望はなかった。就寝時、一時夕立が有り結構雨が降った。



<第3日> 8/13(月)

雨時々曇り

ほとんどの時間雨が降り、槍ヶ岳山荘に到着するまでは修行僧の様相。雨の止み間を狙い、穂先に登頂した。山荘に戻ると大雨がかなり長い間降った。



<第4日> 8/14(火)

晴れのち雨

午前中はスッキリ晴れ、千丈乗越までは素晴らしい景色を堪能した。新穂高ロープウェイの駅付近で激しい夕立があり駅で 30 分ほど雨宿りを余儀なくされた。

【食糧 鈴木美】

第1日：夕 鳥だし鍋(鍋キューブ、カット野菜、ウィンナー)、メのラーメン(サリ麺)

第2日：朝 雑煮(鍋キューブ、カット野菜、餅)

第2日：夕 五目炊き込みご飯(無洗米(8人分5合)、五目炊き込みご飯の素)、スープ(フリーズドライ)

第3日：朝 ふりかけおにぎり(無洗米(8人分5合)、ふりかけ、海苔)、味噌汁(フリーズドライ)

第3日：夕 カレーライス(無洗米(8人分6合)、レトルトカレー)

第4日：朝 カップヌードルリフィル

- ・夏場なので要冷蔵の食材(野菜、ウィンナー)は前半にした。
- ・装備軽量化のため包丁を使わずに調理できるメニューにした。

- ・レトルトカレーやフリーズドライの汁物は全て違う種類にして楽しめるようにした。
- ・おにぎりは 8 人で 5 合だと多かったので 4 合くらいでよさそう。

【会計 北浦】

合計: 187,168¥ (23,396¥/人)

内訳:

- ・車両費 19,226 (車両 2 台, 往復 560km, 燃費 12km/L, ガソリン単価 146¥/L, 消耗費単価 5¥/km)
- ・高速代 16,580 (車両 2 台, 豊田南→安曇野 3,870, 高山→豊田南 4,420)
- ・車両回送代 46,000 (南安タクシー本社→新穂高温泉深山荘)
- ・タクシー 20,950 (南安タクシー本社→七倉山荘)
- ・タクシー 4,200 (七倉山荘→高瀬ダム)
- ・テント場 6,400 (烏帽子小屋)
- ・テント場 8,000 (三俣山荘)
- ・小屋宿泊 54,400 (槍ヶ岳山荘)
- ・水 800 (烏帽子小屋 4L)
- ・食材 10,612

差し入れ

不破さん、ありがとうございました。

【リーダー所見 方田】

今回計画した北アルプス裏銀座縦走は、眺めや、コースの面白さは抜群で、流石は「銀座」であった。山自身の魅力に加え、小屋、テント場の充実さを含めて、北アルプスは本当に良い山域だなあと、あらためて感心した山行になった。また、今回、中堅手前のメンバーが大半を占めるパーティーで、自身も久しぶりの縦走ということも重なり、少し不安もあったが、安全に、計画通り工程を終えたのは、ひとえにメンバーの頑張りによるものと切に感じた。

合宿としては、3 日目は朝方から雨が降り、その中でのテント撤収から始まり、雨と強風の厳しい 10 時間弱の縦走路は、よい経験だと思う。ただ、朝起きてからテント撤収までの時間、一本(休憩)の時間の使い方については、まだ工夫できる余地があると感じた。

北アルプスを一刀両断に縦走する裏銀座は、最高の山歩きでした。メンバーに感謝、天気にも感謝、北アルプスに感謝。また来たい。

今回も気象サポートとして大矢さんから情報を頂いた。近くにこのような専門家がいる環境にも感謝したい。

【メンバー感想】

今回 8 名のパーティーで、新人、女性混成であったため、ゆっくりペースを意識し先導した。二日目には、テン場確保のため先発隊として、福岡、北浦、鈴木でハイペースでの山行。若い 2 名を率いて全力で歩いた。三俣蓮華岳の登り、下りで疲れが飽和し心地よい感じを得ることが出来た。車の運転担当では、帰りの高速渋滞でのノロノロ運転もイライラせず安全運転に徹した。

今回、天候的には残念であったが、8 名の頑張りとおしゃべりで充実した 3 泊 4 日の山行で良かった。また、縦走山行に参加してゆきたい。(鈴木芳)

初日のブナ立尾根の急登、2 日目以降の長い行動に不安はありましたが、楽しいメンバーと方田 CL のリーダーシップ、鈴木 SL の上手なペース作りで何とか乗り切ることができました。烏帽子・槍ヶ岳の岩場では岩登り練習の成果か、とても気持ち良く登ることができた。日頃の成果、長い登りが苦手という弱点を再確認できたとても意義のある山行でした。

今回は最高のメンバーに恵まれ、とても楽しい時間を過ごすことができました。一緒に行ってくれたメンバーに心から感謝です。(西川)

初の縦走登山に期待と不安半々で臨みましたが、天気が回復した最終日に、縦走した長い稜線を見渡すことができ、感動とともに、今後もいろいろな山に登りたい意欲を覚えました。一方で、担げる荷物量を見誤り体力切れとなってしまう、メンバにご迷惑をおかけしました。

また、山容や星空のネイチャーフォトを撮ることの難しさを感じつつ、メンバの素敵なポートレートを沢山撮ることができ、写真を撮る楽しさを再認識させて頂きました。最後に、メンバの皆様、留守部員の方々に感謝申し上げます。（福岡）

初日の急登や3日目の悪天候と急登、槍ヶ岳が不安、など何度も心折れそうになりましたが皆様のサポートのおかげでなんとか乗り切ることができました。他の山行とは違う達成感を味わうことができ、自信にも繋がりました。高所恐怖症の自分がああ槍ヶ岳に登頂することができた感動は忘れられないです。荷物を持ってくれた方、励ましてくれた方、サポートしてくれた方、参加メンバー全員に感謝です。本当にありがとうございました！！（鈴木美）

荷物が重かったため、初日ブナ立尾根を登る時に暑すぎて辛かった。バイドバルブを忘れたせいでハイドレーションがただの容器になったこととても切なかった。雨と強風と曇りと快晴の中の登りと下りと歩きとテント撤収など、全てが非常に貴重な経験になった。また、荷物の重さに慣れるためのトレーニングは勿論だが、軽量化の技術や工夫も必要と強く認識できた。

今回は、朝焼けと雨の槍と流れ星と美味しい食事と優しくて面白くて強くてカッコよくて最高のメンバーに恵まれ、とても楽しかった。メンバーとサポートしてくれた方々とOBに心より感謝です。合宿、また行きます。（古）

初めての長期縦走だったため、最初はついて行けるか不安でしたが、稜線から見る朝焼け、山頂の展望、流星群と天の川、そしてメンバーとの愉快的な会話、どれも新鮮で楽しく、そんな心配は始まったら完全に忘れてしまっていました。中盤天候に恵まれなかったので、リベンジしたいです。また、最終盤では膝が痛くなり、足腰を鍛えるという課題も見つかりました。それもこれも全部含めて、とても楽しい山行でした。ぜひまた行きたいです。ありがとうございました。（北浦）

裏銀座の稜線での景色（憧れであった）が見られなかった事は心残りですが、歩ききる事ができ、達成感に浸っています。また、若いメンバーと楽しくキャンプライフを楽しめた事は、素敵な思い出となりました。最終日の千丈乗越までの景色（歩いてきた裏銀座通りから西鎌尾根）を眺めると、次回の夏合宿参加を予感させました。厳しい中にも笑いの絶えない充実した合宿ができたと思います。メンバーと、サポートしてくれた皆さまに感謝します。ありがとうございました。（天野）